平成六年二月一日発行（毎月1日発行） 三六五号 発行／黒埼町役場 〒九五〇－一一 新潟県西蒲原郡黒埼町大野二八四三－一 電話／〇二五 三七七－三一〇一 編集／企画商工課（担当・広報統計係） 印刷／小野塚印刷㈱ 経費一部五二円

人⑩⑦ 魅力ある老人クラブづくり

親和会
鳥原本村老人クラブ

現在、黒埼町の老人クラブは三十三団体ある。各老人クラブは各々社会奉仕、健康づくりのためのスポーツ活動などを行っているが、活動内容の豊富さから、老人クラブリーダー研修会で注目を浴びたのが鳥原本村の老人クラブ「親和会」。お話を伺った。

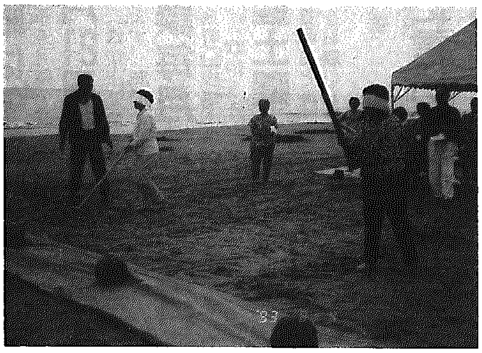
この、親和会という名前は「以前は「尊老会」という名前でしたが、皆が親しく和になれる会、ということで私が会長になった時に変わったんです」と佐藤柾次郎さん。

町内の老人クラブは、その活動内容を三つに大別し、奉仕部、スポーツ・芸能部、教養部にわけているところが多い。親和会も同じで、昨年の活動状況は「奉仕部では、近所の神社、墓地の除草や護国神社の清掃、また、空き缶拾いやしめ縄の販売、簡易保険の集金なんかをやりました。特に護国神社の清掃は十四年間続けてやってて、神社から表彰されました。スポーツ及び芸能部ではゲートボール、舞踊、ダンス、ミニ運動会、また、海浜での運動とふれ合いと題して四ツ郷屋浜で、森林浴、潮風を満喫し、すいか割なんかのりクレェーションをしました。また、ミニ運動会は、町民運動会などではお年寄りの参加プログラムが少なく、参加したくても参加できないし、家族の競技を見たくても留守番で見れない、それじゃあ老人会でやりましょう、という事になったんです。教養部では、医師を招いての衛生講話、仏教法話、また、婦人部長を中心に月1回、悩みや介護などについての相談会なんかをやっています」と様々な事業を実施している。

平均寿命が伸び、高齢化を迎えた現代において、職を離れてからの第二の人生をいかに生きるか関心が持たれている。「やっぱり一番なのは健康ですよ。不健康だと気持ちも塞ぐしね。第二に家に閉じこもらずに皆と融和していく事、そうすれば、連帯間も生まれますからね」健康に注意し、家族や近所のお年寄りと仲良く暮らす。それが第二の人生を楽しく生きる秘訣のようだ。そういった意味では老人クラブが果たす役割も大きい。

「人を集めるには、会の運営を魅力あるものにしなければならない。今年好評だった衛生講話やふれあい運動など、皆でアイデアを出し合い、さらに魅力ある催しにする事が大切です」と意欲的だ。

最後に会長さんは「友愛訪問の時に感じたんですが、アルツハイマーなどのボケの症状がでないように、お年寄りにも家庭の中で、何か責任のある仕事を一つは任せてほしいですね」と各家庭に呼びかけていた。



昨年夏に四ツ郷屋浜で開催した、海浜での運動とふれあいのスイカ割の様子。「下調べや準備運動はどうするか考えたり苦労しましたが、皆に喜こんでもらえたので印象深かったです」と佐藤会長さん。

ほんの一冊

「女たちの本屋」

多田淳子 他 著
アルメディア

日本全国にわたる10店の書店の女性経営者を取材した良質のドキュメントである。『「表現としての書店」を実践して』という副題にもあるように、彼女たちが本屋を選ぶことには必然性があり、その生き方と密接不可分である。落合恵子のクレヨンハウスをはじめ、その多くが子供の本や女性問題の専門店であることも面白い。経営が苦しい所も私財を投じても続けようとするのは、本という商品の魅力によるものなのだろう。10人の魅力的な女性の生き方は一種のサクセスストーリーとしてなかなか元気づけられます。

（中山　佳奈恵）

〈人の動き〉

12月末日現在		(前月比)	〔前年同日比〕
人口	24,032	(＋ 21)	〔＋180〕
男	11,792	(＋ 7)	〔＋111〕
女	12,240	(＋ 14)	〔＋ 69〕
世帯	6,692	(＋ 3)	〔＋127〕

12月1日～末日

出生	24	転入	55
婚姻	36	転出	41
死亡	17		

編集室

ここ数年、暖冬が続いていましたが、今年は雪も積もり、まずまずの厳しさとなりましたがいかがお過ごしでしょうか。昔ほどの大雪は降らなくなったものの、「雪はスキー場だけに降ってほしいものだ」と自分勝手な事を考えながら家のコタツで猫のように丸くなっている編集子でした。

◎さて、来月号は平成四年度一般会計、国民健康保険会計、老人保健会計の決算報告をおしらせする予定です。

●おわび

一月号の町制二十周年の写真紹介で、十六ページの内藤裕子さんの写真が手違いで、当人の写した写真でしたが、優秀賞を受けた作品とは別のものでした。深くおわびいたします。

（町制二十周年写真事務局）